

うるわ 天府之國の 皇帝は

しせん 四川を越えて 東都に生きる

令和六年五月二十五日

大中臣正比呂



内陸の穀倉たる四川省には廬沽湖がある。そこに生息する蝦と共に、  
お手製の辣油をからめて、貴女を四川料理で食べてみたい。  
酒は五糧液だ。四川の名水で造る白酒を口に含み、その唇に移す  
春の宵の妄想は、確たる貴女の目力のせいである。

暫く見ないうちに、川劇の変臉の如く、ぱっと美しくなった貴女は、  
我が旧友達からは、日本に住んでくれとせがまれる。

来春には東をどりを待たずに卒業となる貴女には、  
渡海千里、飛龍万里の兩國を繋ぐ架け橋になって欲しいものだ。